

平成 25 年度事業報告書

平成 25 年度は、長引くデフレからの早期脱却と経済再生を図るため、政府の本格的に再生をめざした景気刺激・成長促進的な政策の効果により、日本経済を取り巻く状況は着実に好転し、GDP成長率もプラス成長を記録したとされています。しかし、景気回復の実感は、中小企業や地域経済にまで十分浸透しているとはいえず、業種ごとの状況にはばらつきがみられ、デフレからの脱却は道半ばにありました。

このような状況のなかで、シルバー人材センターも会員の就業場所の確保と事業実績向上のために新規事業の獲得に努めました。会員の「丁寧で質のよい仕事」を通じて得られた地域からの信頼をさらに高めるため、会員研修なども実施しました。こうした努力により、民間事業の契約は増加となりましたが、公共事業の実績減により、全体の契約額は前年度よりわずかに増加する程度にとどまりました。

また、団塊の世代が 65 歳を過ぎ、地域社会に回帰する状況にあることから、地域での出張入会説明会を開催するなど、会員数の増強に努めました。しかし、高齢者を取り巻く経済状況には厳しいものがあり、より収入の高い就業先を求めている人が多いことなどが影響して入会者数は増加せず、一方で高齢や病気などの理由による退会者が入会者数を上回り、会員数は前年度よりも若干減少となりました。三鷹市内の高齢者数は年々増えていますが、入会の希望者は増加傾向にないため、会員募集とセンターで行っている仕事の内容のPR用チラシを市内に全戸配付して、契約金額増や会員増を図りました。

当年度は、第2次中長期目標の最終年度であり、第3次中期計画会議を中心に各部会や委員会などによりセンターを発展させるための新たな5ヵ年計画として、3つの重点目標「就業機会の拡大」「センター基盤の強化」「地域社会との共生」を掲げた第3次中期計画を策定しました。

平成 25 年度も公益社団法人として法令遵守などに取り組み健全な運営に努めてきました三鷹市シルバー人材センター事業の推進に際し、三鷹市、東京都、国からご理解とともに多大なご支援をいただいたことに深く感謝いたします。

1 事業概要

平成 25 年度における三鷹市シルバー人材センターの事業概要は、次のとおりです。なお、()内は前年度の実績です。

会員数	1,584人	(1,594人)
	男 968人(993人)	女 616人(601人)
受託件数	10,923件	(10,584件)
契約金額	5億8,920万円	(5億8,608万円)
うち公共事業	1億1,839万円	(1億3,119万円)
うち民間事業	4億7,081万円	(4億5,489万円)
配分金	5億2,316万円	(5億2,215万円)
就業延人員	188,552人	(186,704人)
就業実人員	1,260人	(1,267人)
就業率	79.5%	(79.5%)

これを前年度（平成24年度）の実績と比べますと、会員数は10人(0.6%)の減、受託件数は339件(3.2%)、契約金額は312万円(0.5%)の増で、内訳は公共事業で1,280万円(9.8%)の減となりましたが、民間事業では1,592万円(3.5%)の増でした。配分金では101万円(0.2%)の増で、就業実人員は7人(0.6%)の減となり、就業率は増減がありませんでした。

2 事業報告

(1) 就業開拓提供事業

ア 就業の拡大は、センターの重点目標であることから就業開拓提供事業の推進に努めました。発注者の信頼を高めるために会員研修として、「あいさつ」、「連絡・報告」、「就業態度」などについてのコミュニケーション研修を実施し、発注者からの評価の向上を目指しました。就業委員会と事務局が連携して、新規・既存発注先への訪問を実施した結果、大学の施設管理等の新規事業が獲得できました。就業委員会では、高齢者介護施設等を訪問して出張学習講座の提供拡大に取り組みました。また、特別清掃のグループの立ち上げやマンション管理委託業務の受注に向けて研究し、新規開拓活動を推進しました。

イ 適正就業の推進は、労働法等の遵守のために実施する必要があり、適正就業推進プロジェクトチームを立ち上げて請負契約を見直し、業務内容を改善することで対処するよう努めましたが、法令上の問題を解消できないものについては契約を継続できないものもできました。

ウ チョットサービスの包丁砥ぎは、井口班、中原班が中心となって実施し好評を博しました。その全市的拡大の検討を進め、新たに下

連雀2班や大沢班でも実施することになりました。

エ 地域班独自の活動として、公園清掃や野川・仙川などの地域清掃ボランティアを実施し、また児童の登下校に際し安全を見守る児童安全パトロールに約300人の会員が参加するなど、それぞれ地域に密着した活動を積極的に行いました。

(2) 普及啓発事業

ア 地域社会に向けてセンター事業を広く宣伝することにより、就業等を通して社会参加を希望する高齢者への入会促進に努めました。

イ 会員の丁寧で質のよい仕事ぶりや社会奉仕活動などの取り組みを通して地域の住民、事業所等の信頼を確保し、シルバー活動の普及啓発に努めました。

ウ ホームページの更新、「広報みたか」等市の刊行物によるPR、ケーブルテレビの活用、パンフレットの配付、チラシの市内全戸配付、他機関との共同PR活動、市役所ロビーでのシルバー人材センター展の開催、当センター2階で実施した生涯学習教室の作品展の開催などで、より多くの市民にセンターの存在を知っていただけるよう努めました。

エ 市民の行事として定着している「三鷹阿波おどり」「三鷹市民駅伝大会」に参加し、シルバーパワーをアピールしました。

オ 機関紙「かけはし」「事務局ニュース」「地域班だより」「ふれあい」の発行、地域班長会での理事会報告など、会員に対しセンターの活動や会員活動、就業情報の提供に努めました。

カ 植木班では、シルバー活動の普及啓発を念頭に、恒例の正月の門松作りを実施し、市役所、介護老人保健施設や特別養護老人ホームに贈呈し、感謝されました。

(3) 研修・講習事業

ア 会員がセンターの基本理念等を理解・賛同すること及び就業・社会奉仕活動等に必要な知識や技能を修得することで、質の高いサービスの提供を実現し、さらに新たな就業機会を確保するために、研修・講習事業を下記のとおり実施いたしました。

前年度に行った「会員の意識と生活に関する調査」をもとにした「役員、地域班長及び連絡員研修」を実施し、調査で見えてきた会員の生活状況や意識などについての研修を行いました。

また、地域班長・連絡員会議の場を利用し、センターの各種情報を共有する研修を開始しました。

(ア) センター独自の研修事業	参加者数
役員、地域班長及び連絡員合同研修 「会員の意識と生活に関する調査報告書Ⅱ」	
9月6日	110人
地域班長・連絡員会議研修	2回
ホームヘルパー研修	9回
新入会員研修	12回
会員研修「コミュニケーション」	4回
植木班定例研修	11回
植木班実技研修	12月13日
	8人

(イ) 合同研修 (第5ブロック)

理事研修「適正就業」	2月25日
安全講習会「事故の防止」	7月19日
会員研修「糖尿病の予防と治療」	11月28日

(ウ) 連合及び全シ協主催研修

監事研修	4月10日
安全リーダー研修	7月3日
会長・事務局長研修	1月16日

(4) 調査研究事業

ア 自主事業について、現在の事業の評価や市民ニーズとのマッチングを検証し、業績の改善に努めました。

イ 第2次中長期目標の期間が平成25年度で終了するため、第3次中期計画会議を立ち上げ、会員の意識調査の結果や、センターの現状・課題を検討し、各部会・委員会等からの意見も聴取して第3次中期計画を策定しました。

ウ 適正就業を推進するため、各種業務内容を調査検討し、法令遵守に努めました。

(5) 相談事業

ア 入会を希望する高齢者に対して、センター施設内で毎月2回の入会説明会を実施し、地域での出張入会説明会を年2回開催するとともに、常時、市民及び会員を対象とした就業相談を実施しました。

イ 市の外郭団体と共同で、一般市民を対象とした相談会を開催し、定年後の就業や地域参加を希望する市民へ情報を提供しました。

(6) 安全就業推進事業

ア 安全は、高齢者が就業等の活動を通じて社会参加をする上で最も重要な課題と認識し、高齢者が健康で安心して就業等の活動に専念

できるよう、安全意識の徹底と事故防止に努めました。

平成 25 年度の事故の発生件数は 13 件で、前年度と比べて 10 件減となり大きく改善することができました。安全管理委員会や安全リーダーの活躍と会員の安全意識の賜物と考えています。

しかしながら、自転車による事故が多く見られ、事故ゼロを目指し今後も強力に取り組むことが必要です。

イ 安全就業のしおりの配付や、安全就業基準を改正して配付し、安全標語の募集、安全ニュースの発行、安全リーダー研修の実施等により、事故防止の意識啓発に努めました。

ウ 「健康・安全の日」、「重篤事故防止の日」の就業会員全員を対象とした安全ワッペンの着用による安全意識の高揚の取組みや就業現場の巡視など、とくに重篤事故の防止に配慮しながら会員の安全就業の徹底に努めました。